



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

平成30年度第2回 域包括ケア病棟“彩り”事例紹介・意見交換会の報告

11月29日（木）、平成30年度第2回地域包括ケア病棟“彩り”事例紹介・意見交換会を開催しました。今回は、地域包括支援センターや居宅支援事業所で支援されている皆さんに加え、京都府南部地域の医療機関のソーシャルワーカーの皆さんにもご参加いただきました。

事前アンケート結果の発表や“彩り”で受け入れさせて頂いた事例紹介のあと、意見交換会として、特にがん患者さんや認知症の患者さんに対する意思決定支援について、意見交換を行いました。

病院から自宅へ退院する際には、迷い揺れ動く患者さんご本人やご家族の意思をきちんと在宅側に引き継ぐことが大切であること、患者さんご本人の意思確認が難しい場合には、ご本人の生活歴やパーソナリティから推察し、“このような選択をされるのではないか？”と寄り添い考えながら支援を行うことなど様々な意見が出て、支援のあり方について振り返り、学ばせていただく貴重な機会になりました。

職種は違えど同じ医療・介護に携わる方々とこのような意見交換をする機会があることで、顔の見える関係が築けて、より一層良い連携が出来るのではないかな、と感じました。



今後も、微力ながら地域を支えていけるような地域包括ケア病棟“彩り”を目指していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

地域包括ケア病棟“彩り”の紹介動画を作成中です。



以前お知らせいたしました“彩り”紹介動画の作成ですが、11月中に全シーンの撮影と仮編集が終了しました。

撮影時には、各担当者から“彩り”での取り組みについて熱く語っていただきました。普段はなかなか立ち会う機会がない嚙下内視鏡検査やカンファレンスの場面などを見学することができ、動画作成チームメンバーにとっても大変勉強になりました。「患者さんやご家族に分かりやすく伝える」をテーマに、どうすればこれら撮影素材の魅力を最大限に活かすことができるのかを考えながら現在、最終編集を行っております。

完成は間近です。皆さんにお披露目できる日を楽しみにしています。（事務局 主事 井関 良弘）

関節リウマチ教育入院が3泊4日から1泊2日になりました。

関節リウマチ教育入院ですが、患者様のご負担に配慮し、1泊2日で実施させて頂くことになりました。担当医師によるご病気の説明、薬剤師やリハビリ科スタッフによる指導の他、検査（採血・関節エコー・胸部レントゲン・骨密度）を実施させて頂きます。詳細は地域医療連携室までお問い合わせ下さい。（0774-73-1818 担当：中野・中嶋）



地域包括ケア病棟“彩り”の入院費用をお知らせします。

当院は、地域包括ケア病棟入院基本料2で届出しているため、1日あたり2,558点を算定しています。実際には、看護職員配置加算(150点/日)などが加わるため、1日あたり約3,000点を算定しています。(便宜上、以下の例では1日あたり3,000点で計算します)

<例1> 70歳以上の一部負担割合1割の患者さんが7日間入院された場合

入院費：1日3,000点×7日間=21,000点(1点=10円として計算します)
210,000円×自己負担割合1割=21,000円

<例2> 70歳以上の一部負担割合1割の患者さんが3週間入院された場合

入院費：1日3,000点×21日間=63,000点(1点=10円として計算します)
630,000円×自己負担割合1割=63,000円

⇒高額療養費制度の適応となるため、入院費用は57,600円(住民税非課税世帯の場合は24,600円、又は15,000円となります)

※ 別途、食事代(1食460円)がかかります。

※ 飲まれているお薬は持参して頂きますようお願いいたします。

ご質問等ございましたら医事課までお問い合わせ下さい。(医事課 主事 福井 大也)



地域医療連携室より

～頭もおなかも、そして心もいっぱい～

12月1日(土)、相楽会館で開催された「多職種連携講演会」に参加しました。テーマは「在宅看取り～孤独死を考える～」です。山城南保健所の三沢あき子先生による開会挨拶の後、伊左治医院の伊左治友子先生からはオープニングサジェスションとして、孤独死の定義や事前アンケートの結果報告などがあり、その後のフリートークの方向性をお示し頂きました。そして、フリートークです。1グループ10名程度で約1時間、いろんな話を聴いたりしたり、貴重な時間でした。地域で支援しておられる方々がほとんどで、皆さんのいろいろな考えを吸収することができ、大変有意義な機会となりました。



翌日2日(日)は、笠置町で開催された「全国ご当地鍋フェスタ」に行ってきました。朝9時半頃に行ったのですが、熱気ムンムン、朝から本当に沢山の方が来られていました。年々パワーアップしているように思います。笠置町役場や地域包括支援センターの方々、地域医療支援病院運営委員会でお世話になっている大西民生委員協議会代表も手伝っておられ、頭が下がります。沢山の方々から「楽しんでや」と声をかけて頂き、おなかだけでなく心もいっぱいになりました。

午後は、映画を観に行ったのですが、映画が始まる前、竹澤内科小児科医院の竹澤健先生とばったりお会いし、お子さんと仲睦まじく歩いておられる光景に心が温まりました(映画の方は見応えがあり、これはこれで心がいっぱいになりました)。

頭もおなかも、そして心もいっぱいになった週末となりました。(地域医療連携室 室長 南出 弦)